



# さわやか

NO. 54

2018年9月発行

発行：栄区文化協会

<http://sakae-bunkyo.com/>

荒  
波  
超  
え  
て

その先にあるもの

栄区美術連盟  
小華和 紘記

## 充実と発展を願って 栄区文化協会 会長 小華和 紘記

5月30日の定期総会で会長を拝命いたしました小華和です。任期の2年務めさせて戴きますのでよろしくお願いします。

文化協会は様々な活動記録を残しております。その中から次のデータを紹介致します。

2010年/2017年の会員数と来場者数の動向です。

	2010年	2017年	増減	増減率
会員数	2,366	1,976	-390	16.5%減
来場者数	15,279	17,740	+2,461	16.1%増

\*来場者数は秋・芸術祭+春・文化祭

会員の減少はあるものの来場者の方は増加しています。この数字は文化協会の会員として文化事業に携わった方が、夫々の事情で退会される際、引継ぐ私たちへの“はげましの数字”とも読み取れます。広報よこはま「栄区版」5月号で栄区平成30年度の取組事業の一つ“栄区の魅力創出と発信によるにぎわいのあるまちづくり”的紹介がありました。

文化協会への期待も示されており、私たちの活動にも繋がるものですので、今年度の方針について再記述します。

### 1. 文化協会事業の着実な運営

文化協会主催の2つの事業「秋の区民芸術祭」と「春の文化祭」を着実に実施します。

### 2. 活動分野のすそ野拡大

1)伝統文化の掘り起し、2)近隣地域との文化交流、3)インバウンド事業への対応

3)の市・区が進めるインバウンド事業=外国人観光客の誘致とおもてなし事業への対応ですが、当事業への対応と共に迎える側のふるまいの心得も必要と考えています。

### 3. 本部組織の定常化と簡素化

### 4. ホームページ・広報「さわやか」の積極活用

文化協会主催の2つの事業以外の単位協会主催事業の活動風景を随時掲載します。

以上4つの方針を基に事業を進めてまいります。

区民の文化意識の高さと共に、区関係部門、文化関連施設の方々の文化振興への理解、様々な形での支援・協力が私たちの活動の支えになっております。



## 第23回栄区文化協会定期総会開催される 5/30本郷地区センター大集会室

109名の出席者、23名のご来賓の皆様をお迎えし、来賓の紹介、会長挨拶に続き小山内区長はじめ3名の来賓からご挨拶をいただいた。栄区賛歌「大地に耳を」を全員で合唱し、来賓退場後、総会成立要件が確認され議事に入った。

平成29年度の事業報告、一般会計、特別会計及び会計監査が各部局から報告説明があり拍手により承認された。次に平成30年度の事業計画、一般会計、特別会計の提案があり、原案通り挙手多数により承認された。ホームページ担当が広報部から独立し、HP運営部が設立したことによる会則改正案が提案され、会則全体の見直しについての意見が出されたが、会則検討委員会を設ける予定になつてい

る旨の説明があり原案通り承認された。次に、役員改選案が提出され、会長に小華和絃記、会計監査に酒井興一、中村森汪が承認された。新会長が新常任理事の紹介をし、新会長より挨拶と活動方針の説明があり、定期総会は盛会のうちに終了した。



文化協会役員（第23回定期総会にて）

## 常任理事新任の抱負

### 副会長 橋本 洋子

文化協会では会計監査役を、その後、平成26年から4年間、栄区音楽協会の会長を務め、それを機に音楽芸能事業部長として携わつてきました。この度、副会長を受け、部門の多様性をあらためて認識しました。栄区の文化活動の要としてより活力ある組織にしたいと思います。〔音楽芸能事業部長兼任〕



### 副会長 東 光菊

文協設立より関わっているという事からこの度、副会長を仰せつかりました。文協の向上と会員皆様が楽しく、生き生きと活動できる場であることを願って少しでもお役に立てたらと思います。又、芸能部の代表と致しまして古典芸能を広める事にも尽力したいと思っております。



〔音楽芸能事業部副会長兼任〕

### 会計部副部長 佐野 由美子

今年度から会計を担当させていただきます。2度目の会計です。会員の方々の大切な会費をお預かりして大変緊張しております。適正に会計処理をしていきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。



### 企画部副部長 谷山 浩太郎

私の出身母体は美術連盟で今年代表になり、初めての文化協会とのかかわりです。いきなりの常任理事・企画担当。無の状態ですがその伝統を壊さず、各分野のご意見を踏まえ、少しでも良い企画が出来たらなと思っている次第です。



## 広報部副部長 市川 宏

私は音楽協会で事務局を担当し、合唱部門の矢沢男声合唱団に属して活動しております。この度、広報部副部長の任に当たり、文化協会広報誌「さわやか」の編集を通じて、栄区文化協会の皆様の日頃の活動状況を広く区民に知ってもらうよう努めてまいります。



## HP運営部長 星 明男

本年5月、ホームページ組織を「HP運営部」と改称しました。文化協会の皆さんに対する窓口として、栄区の皆さんから気軽に接して頂けるように心がけます。各単位協会からの種々要望にもできる限り応えてまいります。



## 創作部会長 植松 一榮

私は今流行の「コラボ」を各事業部を超えて実現し、単位協会の中でも、ほかの単位協会との合同事業により、各会員の交流を幅広く行えたら協調性が増し、充実した活動を栄区民に発信できるのではと、夢見ております。



## 会計監査 酒井 興一

会計監査の酒井です。会計処理のチェックと修正等定型業務で強いて抱負はありませんが、会計入力作業が難しいとのこと、何らかの改善方法がないか考えて見たいと思います。



## 会計監査 中村 森汪

2月から吟剣詩舞会会长を引き受け、文化協会の会計監査に選出されたため組織、活動内容も十分に解っておりません。幸いにも文化協会会計監査要領を手にしましたので一般会計、特別会計などの区分をしっかりと見極め的確に業務を推進してまいります。



## インバウンド事業について

### 国際交流部 角田 操子

来年のラグビーワールドカップ、2020の東京オリンピック・パラリンピックを機に栄区も外国人誘致を図っていくことですので、区から要請があつた時、対応出来るよう窓口、受け皿を準備しておきたいと思います。外国人観光客の誘致とおもてなし事業への対応です。

窓口は国際交流部、受け皿は全単協、各単協の中で外国語堪能の方の確保も必要と思っています。

“栄区民芸術祭”はポスター、広告、チラシ、HPの打ち出し方次第で、栄区のインバウンドの目玉になりうると思います。

当事業への対応と共に迎える側のふるまい・マナー・礼儀作法の心得も必要と考えています。

## “あーすフェスタかながわ 2018”に参加

栄区書道協会、栄区民謡連盟  
5/19 あーすプラザ

豊かな多文化共生社会実現に向けてのイベントで、今年で19回目になる。文化協会からは栄区書道協会と栄区民謡連盟が参加した。

11時から1階研修室Aで“せかいのごあいさつを毛筆で”が始まった。この企画は栄区書道協会の講師の指導のもと用意された世界各国の挨拶の中から参加者が選んだ挨拶をその国の言葉と文字を毛筆で書くというワークショップである。幼児から大人まで、外国人も集中して書き上げた作品に雅印を押してもらい笑顔で持ち帰っていた。参加して連続5年目になるため毎回楽しみにしているというリピーターも少なくないようだった。

一方、13時からリリスホールでパフォーマンスプログラム“Be FESTA! Vol. 1～キラキラつながる”が開演した。栄区民謡連盟が先陣を切って出演、安来節保存会栄教室が「黒田節」、「安来節」を舞い、続いて、一声会の松永泰輔さんが「津軽じょんがら節」を三味線の弾き語りで演じた。「子供連れや若い方に普段なじみの薄い民謡に興味を持ってくれたことはうれしく、様々な国に根付いた音楽の演奏が楽しかった」と松永さんは語った。

来年、「あーすフェスタかながわ」は20周年を迎える。

## あじさいの小径とあじさい展 ~手工芸・SAKAE~ 5/15~7/10 北鎌倉古民家ミュージアム

梅雨の季節になり、ミュージアムの庭園に所狭しと咲く様々な種類のあじさいにも劣らない“あじさいの芸術品”が館内に華やかに陳列されていた。2階、3階に飾られた手工芸・SAKAEの作品の数は200点ほど、会員のほとんどが複数出品した。毎年2月からこのイベントに参加する準備をすること。

デコパージュ、フラワーアレンジメント、染色、押花絵、布細工、粘土アート、グラス&シルエットの7グループが参加し、5種の個人参加作品も加えて“あじさい”をテーマに様々な作品が展示された。割り当て場所にグループ毎でそれぞれの配置で展示するが、会場全体の調和も取れている、これは全体のチームワークの良さがあるからだろう。代表の佐野由美子さんは「あじさいをテーマにして、色々なジャンルの作品がバラエティーに富んで展示されているところを見てほしい」と話す。



平成25年から今年で6回目の参加となるが、そもそも参加するようになったのは、手工芸・SAKAEの10周年記念行事として、このミュージアムの全館を借り切って作品展を行ったことが縁の始まりとのこと。それ以来、ミュージアム側からあじさい展への出品依頼を受けて参加するようになったそうだ。

今後もバラエティーに富んだ作品を見られることを楽しみにしたい。

## 春の音楽祭 “オペラを楽しもう” 3/4 リリスホール 栄区音楽協会 橋本 洋子

2018年「春の音楽祭」は鑑賞する機会が少ないオペラ身近に親しんでいただこうと「オペラを楽しもう！！」を企画しました。オペラ、それは歌と音楽によって構成されるドラマで、そしてそのほとんどが「愛の物語」といえます。

1部：合唱で楽しもう オペラの中での有名な合唱曲を女声合唱団、混声合唱団が場面を連想させる演技を入れ、大いに会場を盛り上げました。

2部：アリアで楽しもう 蝶々夫人より「ある晴れた日に」他、3人の先生方によるオペラのアリア、それは歌声も素晴らしい、衣装も華やかで客席も夢見心地でした。



3部：歌劇「椿姫」抜粋 オペラで最も有名なヴェルディ作曲「椿姫」を、場面ごとに物語のナレーションを入れわかりやすく構成しました。主人公ヴィオレッタ（ソプラノ）、恋人アルフレード（テノール）、父親ジエルモン（バリトン）の情感溢れた歌唱、オーケストラ演奏、会員によるオペラ合唱団が舞台一杯に歌と、演技を繰り広げ、フィナーレ（写真）の「乾杯の歌」では満席の会場からブランボーの喝采を浴びました。

編 集 後 記

今年の夏は猛暑・酷暑が続き、命にかかる危険のある暑さとTVなどで繰り返された。そんな中、編集作業とは…。今号から9月号も表紙をカラーにすることになり、新会長の絵画作品で飾った。予想される困難を会員全体で乗り越えていこうとの意志の象徴とも見える。

(表紙の題字「さわやか」は安藤紫水氏の揮毫による)

さわやか第54号

平成30年9月20日発行

栄区文化協会会长 小華和紘記

編集 市川宏 奥野知行

印刷 (有) 豊田印刷所